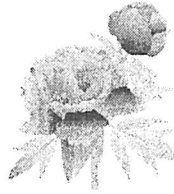


礼拝

令和4年6月13日
2号



環境を美しくしよう

～心の三毒への気づき～

六月も二週目に入り、中間調査の結果などをもとに、個人面談が進められていることと思います。初めての定期調査に対する取り組みや、その成果をきちんと振り返り、今後の学校生活に生かしましょう。

さて、六月の月間目標は「環境を美しくしよう」です。環境を美しくと言われて何を思い浮かべるでしょうか。日々の掃除の時間に教室をきれいにすること、落ち着いた環境で授業を受けること、周囲への配慮を心がけよりよい友人関係をつくること、部活動に一所懸命に励むこと……。自分の周囲が環境であり、また自分自身も環境の一部です。から、まずは自分自身を整えていくことが、環境を美

しくする最も大切な存在であると言えるでしょう。お釈迦さまのことばに、「錆(さび)は 鉄より生ずれど その鉄を傷つけるがごとく 不浄(けがれ)ある行者(ぎやう)とは おのれの業(ごう)により 悪処(あくじょ)にみちびかれん」という詩句があります。不平や不満、悪口を言うことでストレスを発散しているつもりでも、それは自分自身を滅ぼす元になるということです。いつも悪口を言っていると、悪口を言う人が集まり、今度は自分が悪口を言われているように思える疑心暗鬼が生じ、環境をどんどん悪くしていきます。仏教では私たちのことを「煩惱具足の凡夫(ぼんのうぐそくごぼんぶ)と表現し、私たちは煩惱の塊であり、煩惱を取ったら何も残らない存在であると説いています。煩惱とは三つの毒と言われ、あれが欲しいこれが欲しいと思う欲の心(貪欲・どんよく)、欲を妨げられて生まれる怒りの心(瞋恚・しんに)、ねたみやうらみ、そねみの心(愚痴・ごち)のことを指します。これらの心が止むことなく、断ち切れな

いのが人間なのです。こんなお話があります。「昔、何よりも遊ぶ事が好きな男がいた。その男は親から受継いだ財産をほとんど遊びで失い、残ったのは木も生えていない山だけだった。大雨が降ったら危険と言われ植林することになった。男は

苗木を探したが、男の所持金では買えない。途方にくれていた時、なんと苗木を無料で分けてやるといふ人が現れた。その人の名は窮鬼(きうき)と言った。タダであげるが、この三種類の肥料を朝昼晩、欠かさず苗木の根元にやるのが条件だと言った。男は喜んで、窮鬼の言った通りに苗木を植え、欠かさず肥料をやり続けた。ある夜、苗木がザワザワして勢いが出てきた。男は根が着いたと喜んだ。次の朝、肥料をやりに行くと苗木は、ぐったりとして眠っているようであった。そう、苗木は「朝寝」「昼寝」「宵寝」という根(ネ)を張り、夜になると勢いが良くなるのである。しばらくして芽が出てきた。イジメと言う芽(メ)である。それでも男は気づかずに、肥料をやり続けた。おかげで木は大きく育ち、ついには喧嘩(ケンカ)という花を咲かせた。花の後にはうらみ、そねみ、ねたみという実がなつた。男は初めて三つの肥料を見た。一つ目は貪、二つ目は瞋、三つ目は痴と書いてあった。苗木の環境はすっかり貪・瞋・痴の三毒に汚染され、気付いた時には、貧乏(貧棒)と言ってお粗末な木になっていた。これを難木(難儀)という。」

環境を悪くするきっかけはすべて私たちにあり、そのことに気づくことが環境を美しくする第一歩ではないでしょうか。まずは自身を振り返りましょう。